

週刊 タバコの正体

タバコを吸うと、身体のいろんな器官にダメージを与えるのは知っていますよね。喫煙者がガンになる確率はタバコを吸わない人よりも高くなる事、口の中の細菌が増えて臭くなる事、顔のしわが増える事などを紹介してきましたからね。

今回も、その続きを紹介します。下の図を見てください、タバコは血管にも悪影響を与えるのです。じつは、タバコを吸っている間血管は縮んでいます。さらに長年吸い続けていると、血管の内部が傷つき動脈硬化が起こり、血液が通る道が細くなっていきます。そうすると、血液の流れが悪くなり血流が低下します。

血液は体内の各細胞に栄養を与えていますから、血流が不足すると細胞の健康状態は悪くなります。そして、動脈硬化が進行して血管が詰まってしまうと、その先の細胞は死んでしまいます。こんな事が心臓の細胞に血液を送る血管で起きてしまうと大変なことになります。心臓を動かす筋肉が死んでしまうので、命にかかわる事態となります。これが“心筋梗塞”という病気です。

怖いですよね。自分がそんな事になるなんて、想像もしたくないでしょう。だから、タバコに手をだしてはいけません。

産業デザイン科 奥田 恭久

